

## 第3章

### 研究方法

#### A. 研究の方法

研究とは、問題を理解するし、評価できるし、または答えを見つけるために体系的、論理的に科学的な措置に基づいているプロセスである (Sutedi, 2009: 16)。本研究の目的が良く達成するために、効果的もしくは効率的な手順が必要である。実装される手順は、メソッドと呼ばれる (Sutedi, 2009: 53)。つまり、研究方法とは研究を良く達成するための手順である。

本研究で用いた方法は記述方法である。記述方法とは実際の問題に対処するために科学的な手順を使用して、現象を記述し、記述するための研究である (Sutedi, 2009: 58)。本研究には日本語の慣用句に対する学生の理解問題を明らかに説明する上で、目(mata), 鼻(hidung), 口(mulut), 耳(telinga)及び舌(lidah)に含まれる日本語身体部分慣用句の意味を記述する。

本研究でのアプローチは、定性的なアプローチである。定性的なアプローチを使用して検討されているすべての慣用句を記述することを意味する。

#### B. 研究の対象

本研究に言語学の観点からの定性的に研究される対象としては目(mata), 鼻(hidung), 口(mulut), 耳(telinga)及び舌(lidah)の身体部分を使用する慣用句である。ケーススタディとは特定のケースに焦点を当てて実施して、慎重に完了

するまで観察し、分析する。このケースに関連付けられている様々な要因の分析によって行われ、最終的に正確な結論を取得する必要がある (Sutedi, 2005:26)。

### C. データの資料

本研究のデータは定性的なデータである。定性的なデータソースは日本語の教科書、辞書、小説、新聞、インターネットサイト及び日本語の慣用句を議論する以前の研究である。資料としての教科書は以下に述べる。

- a. 日本語中級 1 (国際交流基金)
- b. New Approach Japanese Intermediate Course (中級日本語)
- c. New Approach Japanese Intermediate Course (中上級日本語)
- d. 日本語 I
- e. 日本語 I I
- f. 中級から学ぶ日本語
- g. 読解 I (三年度の PPBJ FPBS UPI)
- h. トピックによる日本語総合演習

### D. データ収集の手順

本研究では、必要なデータは、日本の慣用句の使用の文の例 (定性データ) に関するデータである。本データは言語学の観点からの定性的な分析から得

られる。

データフォーマットの形式で研究機器としてデータを取得するために使用する。.

#### 1. データフォーマット機器

このデータフォーマットは上記の様々なソースから基づいて、日本語の慣用句を使用する例を収集する。したがって、これらのデータは質的データであり、処理は定性分析により行う。定性分析には研究者が機器として研究して、主観的なデータを収集する(Alwasilah, 2002: 116)。研究者は容易にデータを収集するために、数字の列、例文、作成者は、ソースと出版年で構成されたテーブルのデータフォーマットを使用する。

定性的データ、すなわち認知言語学の観点から分析される例文で、カテゴリとしての 3 つ種類の比喩にそれぞれの慣用句を参照し、定義することである。これは、靱山 (2002) などによって行ったことがある。それは隠喩、換喩、及び提喩。

#### E. データの分析方法

日本語の慣用句の場合には目(mata), 鼻(hidung), 口(mulut), 耳(telinga)及び舌(lidah)を使用して量を決定するために実行される最初のステップである。霊界慣用句辞典及び実用諺辞典は参考書として使用される。辞書は完了な辞書なので、使用される。辞書の慣用句の数が特定された後、インドネシアで使

用されている日本の教科書に含まれている慣用句と照合する。教科書は日本語 I と II 読解 I (PPBJ FPBS UPI), 日本語中級 I (国際交流基金) からなどである。教科書分析結果からは対象に関係する慣用句を 30 見つかり、そして分析のために 9 つ選択する。

認知言語学の観点から実験に供した慣用句の意味は第二ステップの分析である。慣用句的の意味を持つ字義通りの意味との関係を強調した意味が、それは新しい語彙や表現を見つけた場合、それが辞書的の意味を見つけるために辞書を開ける。慣用句意味はほとんど普通の辞書に見つからないが、慣用句辞書に調べても、学習者が読むことはまだ困難である。この分析は、参考として、3 つ種類の比喩を使用して意味の関係を記述することで、理解を容易にするために行われる。

詳細にこの定性分析の手順は、次のとおりに述べる。

1. 研究される慣用句の字義通りの意味をさがす (字義通りの意味)

このステップで筆者は日本・インドネシアの基本的な辞書を基づく。

2. 分析される各慣用句からの慣用句的の意味を探す。この慣用句の意味

を決定するために、筆者は『例解慣用句辞典』を参照する Inoue (1998),

Kuramochi (1987), Miyaji (1982)。

3. 隠喩、換喩、及び提喩の比喩を使用することによって字義通りの意味

と慣用句的な意味の関係を記述する。

本研究では意味の関係を記述するには、このステップで糸山(Sutedi, 2009:72)で説明した対策を使用している。それは隠喩、換喩、及び提喩の比喩を使用する。言語は 3 つの比喩から不可分であるが、各動詞の字義通りの意味を決定する際に、以前の研究の結果を使用されること。

以上の 3 つの比喩の範囲は以下のように糸山 (2002 ) に基づいている。

a. メタファー ( 隠喩 'inyu' )

隠喩とは、両方の性格の類似性に基づいて、ケース（例えばA）に何かのケース（例えばB）を表現するために使用される言葉のことである。広範な類似性は、自然、文字、または特定のケースでは、スピーカーの視点に依存している。

b. メトニミー ( 韓愈 'kanyu' )

換喩は、空間と時間の両方への近接に基づいて、ケース（例えばA）に何かの場合（例えばB）を表現するために使用される言語のスタイルである。近接に近い距離があるのかもしれないが、それはまた、全く距離が存在しないという意味でしたので、それは部分と全体、原因と結果の意味となる。

c. シネクドキ ( 提喩 'teiyu' )

提喩は (B) より具体的で共通の何か (A) を仮定するか、またはそれ

以外の場合は (B) が使用される言語のスタイルを般的な (A) になぞらえている。上記の 3 つの比喩を使用することに加え、また、その言語を使用している人々の文化や習慣などのさまざまな要素を注意する必要がある。

#### 4. 一般化の作成

このステップでは、字義通りの意味及び慣用句的な意味の結論を作成して、また、研究される各慣用句の慣用句的な意味と字義通りの意味の関係についての結論としている。